

岡山県感染症週報 2018年 第4週 (1月22日～1月28日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

◎岡山県の『腸管出血性大腸菌感染症注意報』は解除になりました (2月2日)

◆2018年 第4週 (1/22～1/28) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第2週 5類感染症 急性脳炎 1名 (10代 女)
- 第3週 5類感染症 アメーバ赤痢 1名 (40代 男)
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2名 (70代 男 2名)
- 後天性免疫不全症候群 1名 (40代 男)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (80代 女)
- 梅毒 1名 (30代 男)
- 百日咳 1名 (小学生 男)
- 第4週 2類感染症 結核 1名 (20代 女)
- 4類感染症 レジオネラ症 1名 (70代 男)
- 5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名 (60代 男)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (70代 男)
- 梅毒 1名 (20代 男)
- 百日咳 5名 (小学生 男 1名・女 2名、中学生 女 1名、20代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 3,433 名 (定点あたり 42.96 → 40.87 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 105 名 (定点あたり 1.61 → 1.94 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 343 名 (定点あたり 6.44 → 6.35 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第5週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 210 施設でありました。(1月29日～2月1日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 3,433 名 (定点あたり 42.96 → 40.87 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県は、1月25日に『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市 (53.69 人)、岡山市 (44.68 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2017/2018年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」発令中!](#)』をご覧ください。
2. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 105 名 (定点あたり 1.61 → 1.94 人) の報告があり、3週連続で増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市 (3.55 人)、岡山市 (3.07 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **感染性胃腸炎**は、県全体で 343 名 (定点あたり 6.44 → 6.35 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備前地域 (9.80 人)、備北地域 (7.75 人)、岡山市 (6.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2017/2018年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
4. 岡山県は、平成 29 年 7 月 5 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図ってきましたが、平成 29 年 12 月は 3 件、平成 30 年 1 月は 0 件と患者等の発生数が減少し、今後は、例年発生の少ない時期を迎えることから、「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を 2 月 2 日に解除しました。注意報は解除になりましたが、食品の十分な加熱処理、調理前や食事前の手洗いなど、食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★★★★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★★★
感染性胃腸炎	➡	★★★★	水痘	➡	★
手足口病	⬇	★	伝染性紅斑	➡	
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	⬇	
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	⬇	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	⬆	★
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

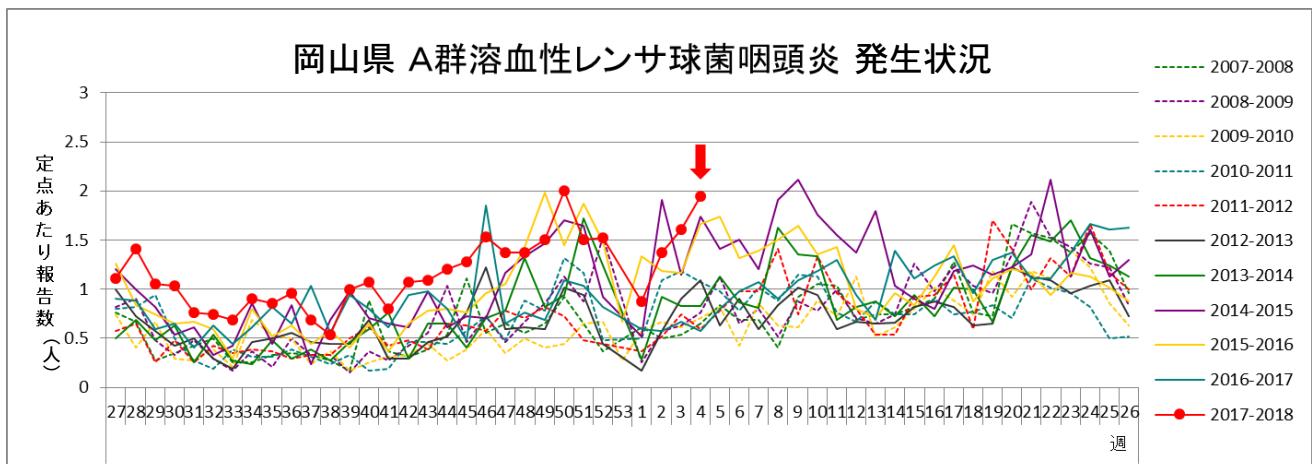
【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ⬇：大幅な減少 ⬇：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

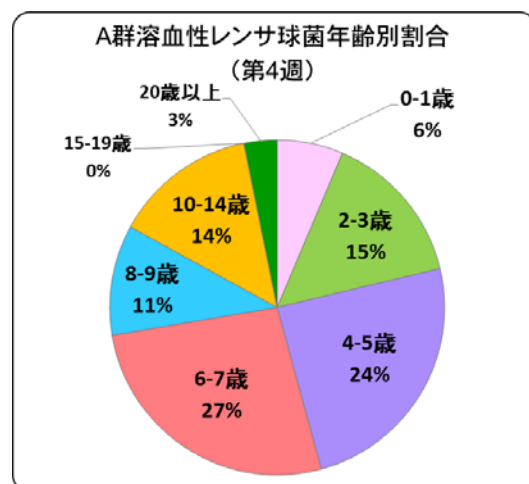
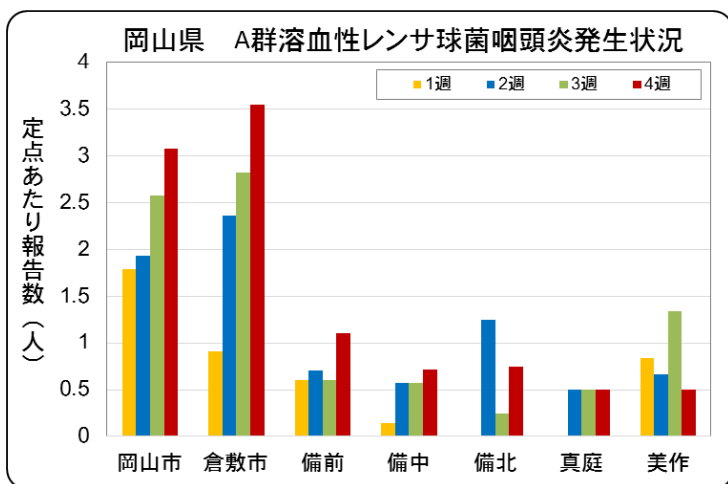
今週の注目感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

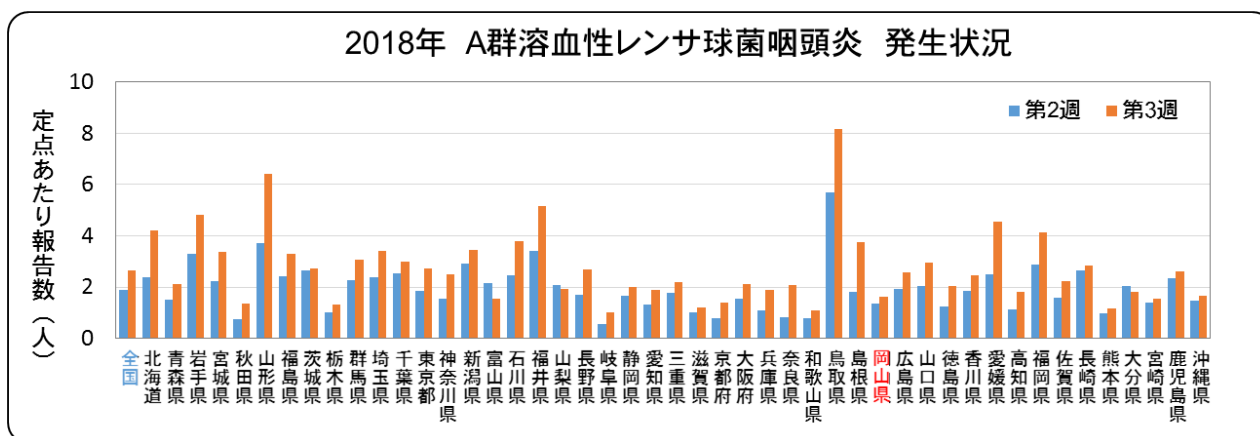
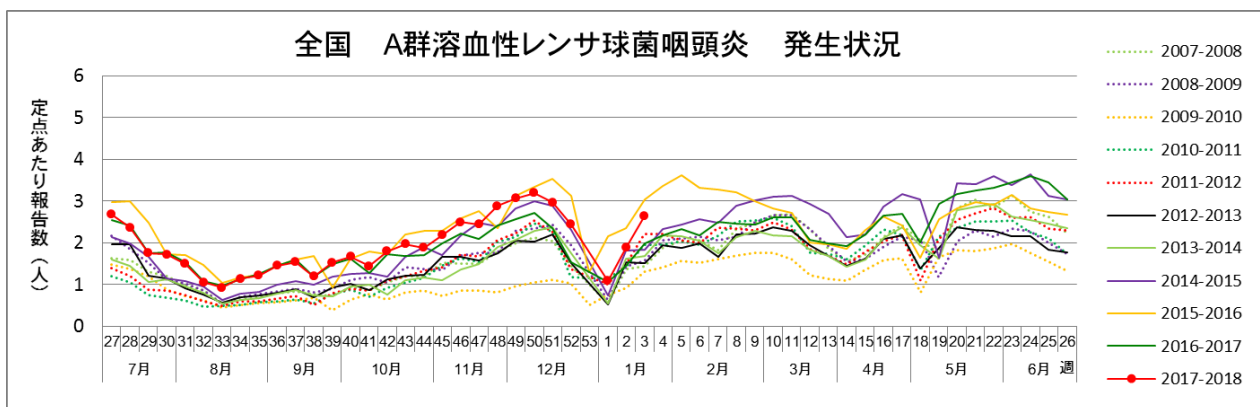


※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で105名（定点あたり1.61 → 1.94）の報告があり、3週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市（3.55人）、岡山市（3.07人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、多くの地域で患者が増加しています。第4週年齢別割合では、6-7歳 27%、4-5歳 24%、2-3歳 15%の順で高くなっており、10歳未満の小児が全体の83%を占めています。

【全国の発生状況】



全国の第3週（1/15～1/21）の発生状況は、定点あたり報告数が2.65人であり、前週より増加しました。過去10年間と比較して患者の発生が多い状態です。都道府県別では、鳥取県（8.16人）、山形県（6.40人）、福井県（5.18人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されていますので、県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、就学前から学童期の小児に多い感染症です。A 群レンサ球菌による上気道感染症で、感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認されます。

【症状】

潜伏期間は 2～5 日で、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、発熱は 3～5 日以内に下がり、主症状は 1 週間以内に消失する予後が良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後 12～24 時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現し、針頭大の皮しんにより、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも 10 日間は、確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）](#)

インフルエンザ週報 2018年 第4週 (1月22日～1月28日)

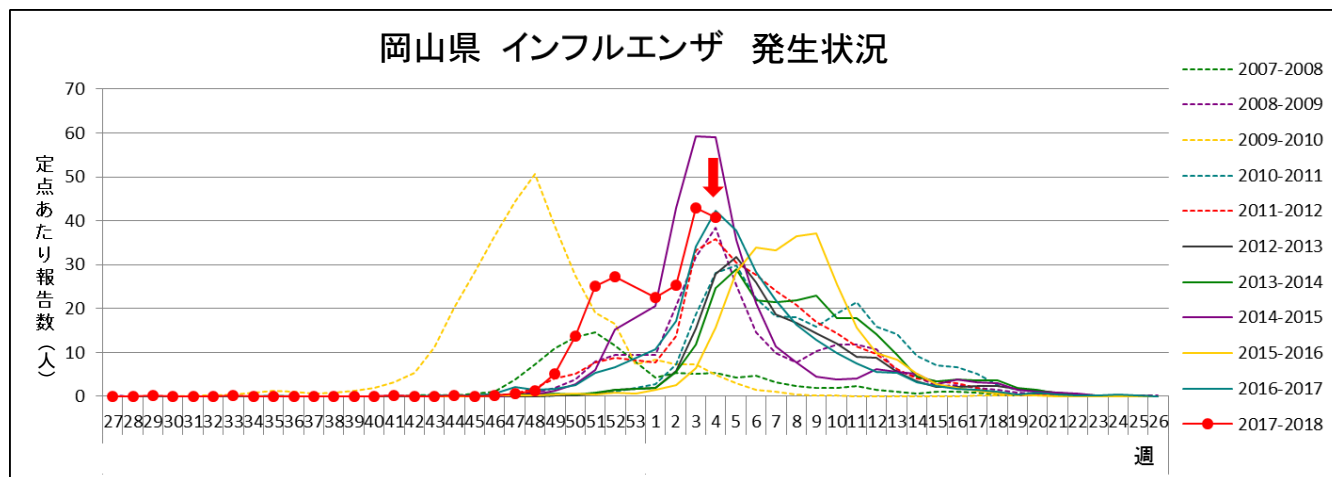
岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で3,433名(定点あたり40.87人)の報告がありました。(84定点医療機関報告)
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が183施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者33名の報告がありました。

【第5週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が210施設でありました。(1月29日～2月1日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で3,433名(定点あたり42.96 → 40.87人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県は、1月25日に『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(53.69人)、岡山市(44.68人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、新たに美作地域(31.90人)が発生レベル3となりました。全ての地域で発生レベル3となり、県内全域で大きな流行が継続しています。

学校等の臨時休業は、前週(145施設)より増加し、第4週は183施設から報告がありました。また、第5週(1/29～)速報でも、すでに多くの施設から報告されているため、ひきつづき幼稚園・小学校・中学校を中心とした集団の中での感染に注意してください。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』、『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

◆インフルエンザは流行が継続しています。 さらなる感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな? という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
- * 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	3,433	➡	備 中	患者数	472	➡
	定点あたり	40.87			定点あたり	39.33	
岡山市	患者数	983	➡	備 北	患者数	192	➡
	定点あたり	44.68			定点あたり	32.00	
倉敷市	患者数	859	➡	真 庭	患者数	88	➡
	定点あたり	53.69			定点あたり	29.33	
備 前	患者数	520	➡	美 作	患者数	319	➡
	定点あたり	34.67			定点あたり	31.90	

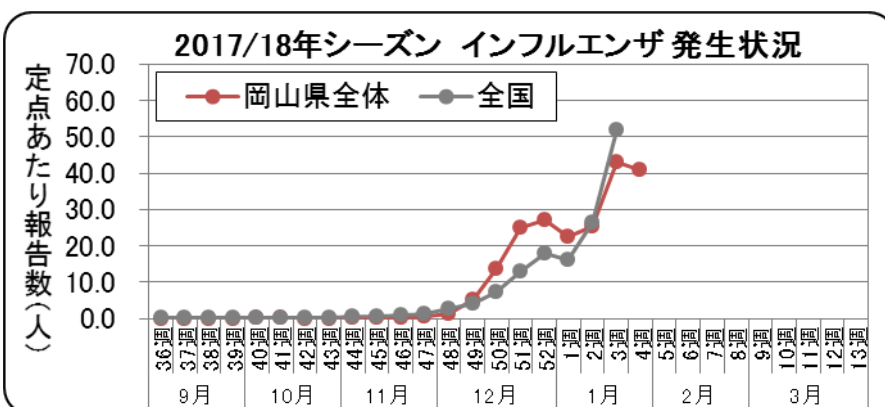
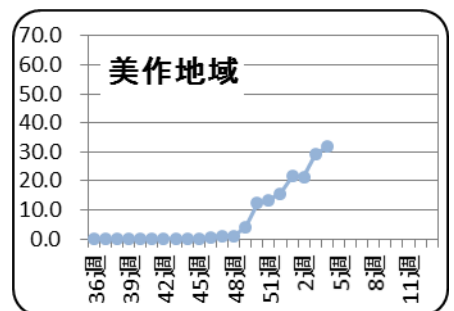
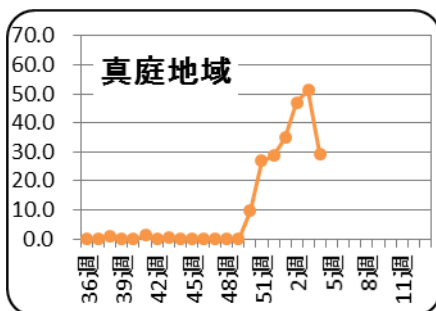
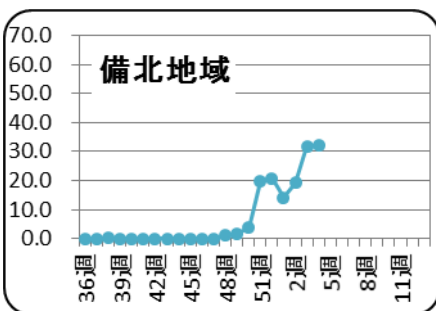
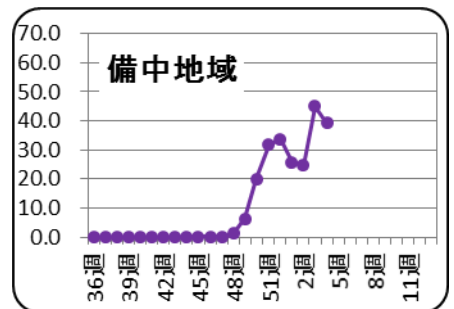
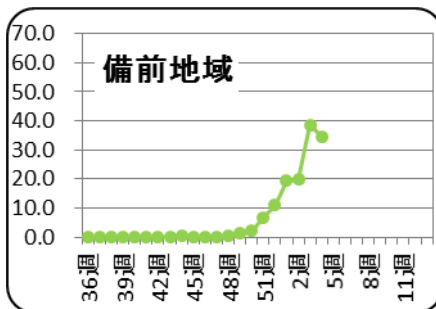
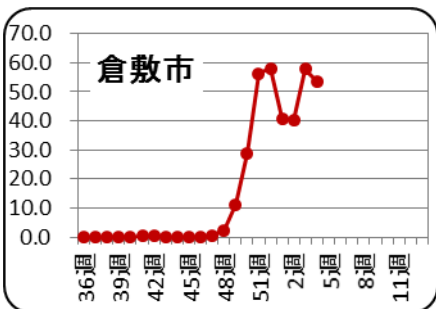
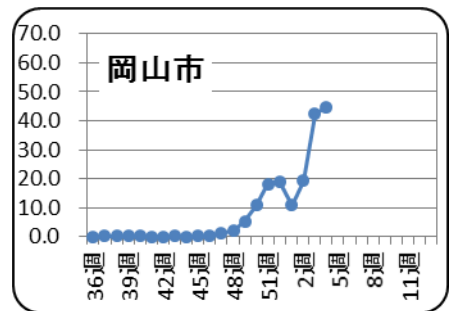
【記号の説明】 前週からの推移
 ↑：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↓：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 10 未満		0

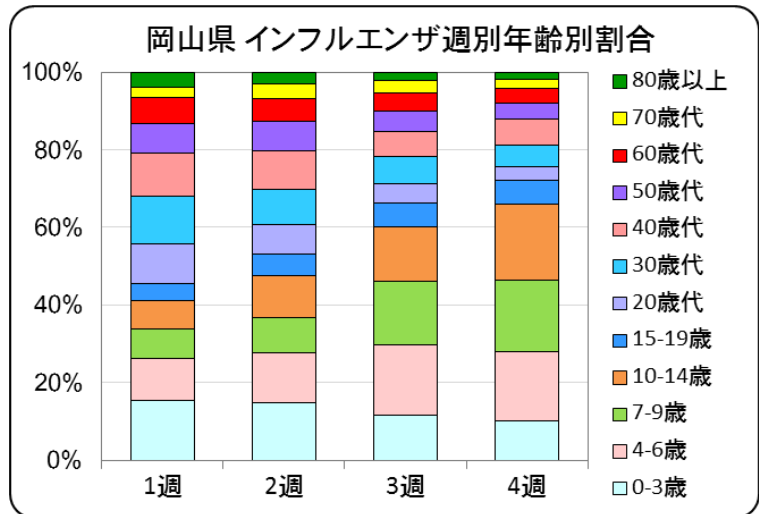
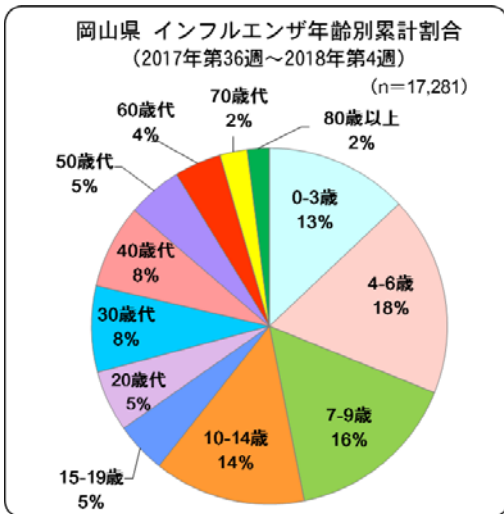


全国集計第3週（1/15～1/21）速報値によると、全国の定点あたり報告数は51.93人となり、前週（26.44人）より増加しました。都道府県別では、鹿児島県（86.53人）、宮崎県（84.97人）、福岡県（83.99人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、全都道府県で前週の報告数よりも増加がみられました。

[インフルエンザの発生状況について](#)
 （厚生労働省）

2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 18%、7-9歳 16%、10-14歳 14%の順で高くなっています。週別年齢別割合をみると、幼稚園・小学校・中学校を中心とした集団生活をしている年齢層で前週より増加しています。

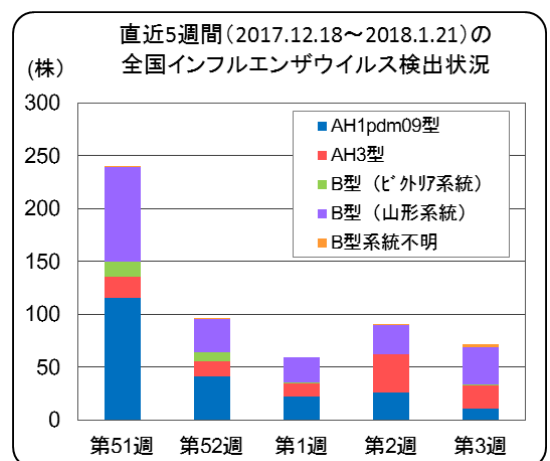
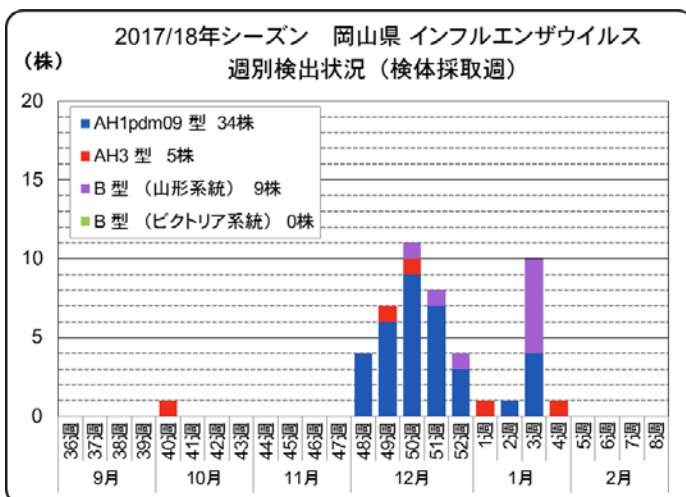


3. インフルエンザウイルス検出状況

第4週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、5株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは48株で、その内訳は、AH1pdm09型 34株、AH3型 5株、B型（山形系統）9株となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 50%、AH3型 20%、B型 30%〔山形系統 27%・ビクトリア系統 2%・系統不明 1%〕となっています（1月26日現在）。直近の5週間（2017年第51週～2018年第3週）では、AH1pdm09型とB型の検出割合がほぼ同程度であり、次いでAH3型の順となっています。

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3型	2018年第4週(1/22～1/28)	2018/1/22	倉敷市	50代	女	
インフルエンザウイルスB型	2018年第3週(1/15～1/21)	2018/1/19	備前	中学生	男	山形系統 集団発生事例
インフルエンザウイルスB型	2018年第3週(1/15～1/21)	2018/1/19	備前	中学生	女	山形系統 集団発生事例
インフルエンザウイルスB型	2018年第3週(1/15～1/21)	2018/1/18	備前	中学生	男	山形系統 集団発生事例
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2018年第3週(1/15～1/21)	2018/1/15	倉敷市	20代	女	

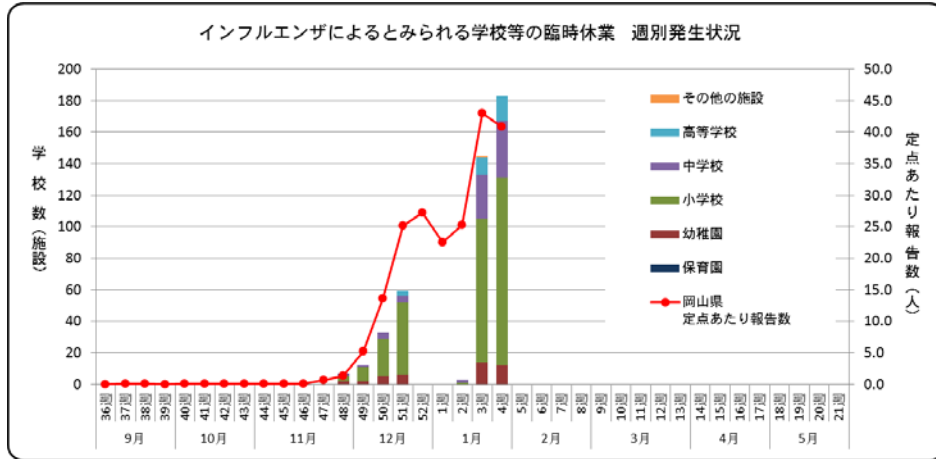


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 183 施設でありました。

【第 4 週 臨時休業施設数】

▽岡山市	74	▽倉敷市	31	▽笠岡市	13	▽総社市	6	▽浅口市	6
▽和気町	6	▽津山市	5	▽赤磐市	5	▽真庭市	5	▽玉野市	4
▽瀬戸内市	4	▽井原市	3	▽備前市	3	▽矢掛町	3	▽美咲町	3
▽吉備中央町	3	▽新見市	2	▽美作市	2	▽里庄町	2	▽高梁市	1
▽鏡野町	1	▽勝央町	1						



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	2810	6783	2195	5417	183	442	0	6	46	105	137	331	H29.11.27
岡山市	1227	2431	933	1849	74	149	0	1	7	16	67	132	H29.11.27
倉敷市	572	1716	451	1446	31	103	—	—	2	7	29	96	H29.11.27
備前地域	298	586	256	494	25	51	0	1	12	22	13	28	H29.12.13
備中地域	444	1083	353	913	33	82	0	1	10	25	23	56	H29.12.5
備北地域	41	122	27	96	3	11	—	—	3	7	0	4	H29.12.4
真庭地域	73	154	53	125	5	11	—	—	5	9	0	2	H29.12.18
美作地域	155	691	122	494	12	35	0	3	7	19	5	13	H29.12.4

2) 臨時休業施設数の内訳

第 4 週 : 183 施設

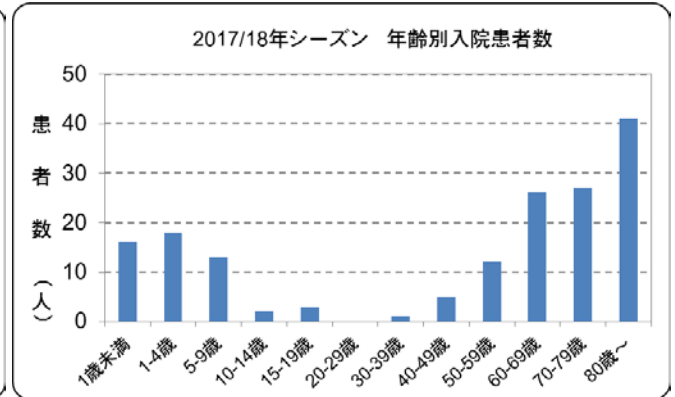
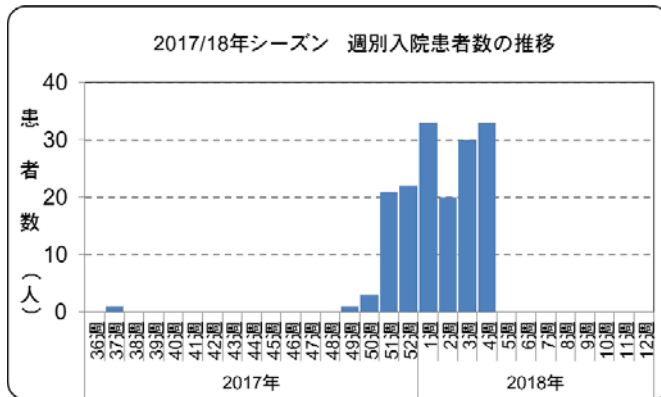
累計 : 442 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	12	41	119	293	36	77	16	30	0	1

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、33 名（1 歳未満 3 名、1-4 歳 2 名、5-9 歳 4 名、10-14 歳 1 名、50-59 歳 4 名、60-69 歳 4 名、70-79 歳 5 名、80 歳以上 10 名）の報告がありました。インフルエンザ注意報（発令基準：定点あたり 1.00 人）が発令されてからの入院患者数は 163 名であり、昨シーズンの注意報発令からの入院患者数（45 名）より大きく増加しています。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 4 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数	3	2	4	1					4	4	5	10	33
ICU 入室 *											1		1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *			1	1								1	3
頭部 MRI 検査(予定含) *				1									1
脳波検査 (予定含) *		2											2
いずれにも該当せず	3		3						4	4	4	9	27

* 重複あり

【2017 年 9 月 4 日以降に入院した患者の累計数】

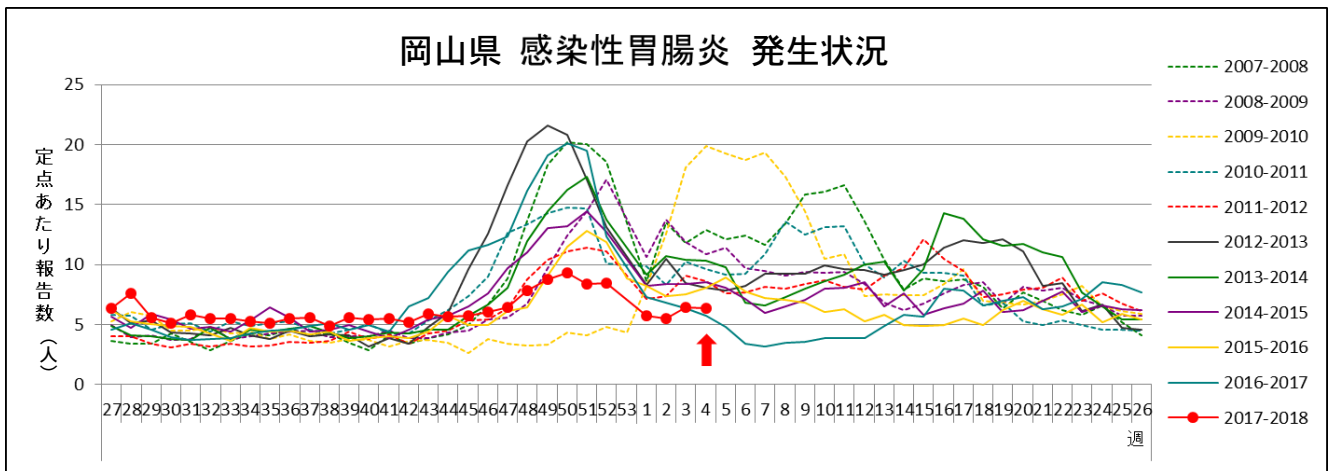
年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数	16	18	13	2	3		1	5	12	26	27	41	164
ICU 入室 *		1								3	5	2	11
人工呼吸器の利用 *												1	1
頭部 CT 検査(予定含) *	1	3	2	1			1			3	1	8	20
頭部 MRI 検査(予定含) *	1	3	1	1			1			2		1	10
脳波検査 (予定含) *		6											6
いずれにも該当せず	14	10	10	1	3			5	12	21	22	32	130

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2018年 第4週 (1月22日～1月28日)

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で343名(定点あたり6.35人)の報告がありました。(54定点医療機関報告)

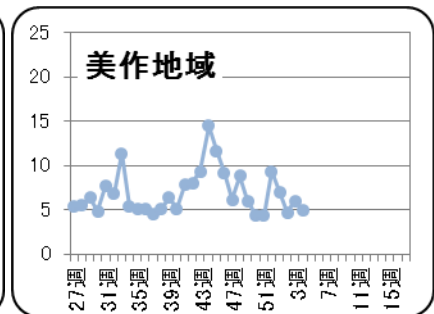
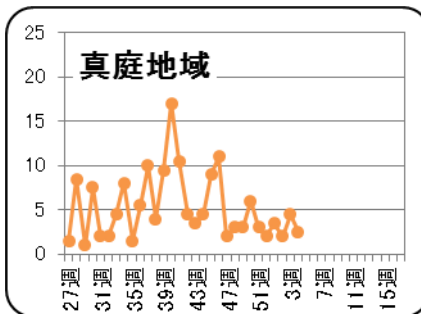
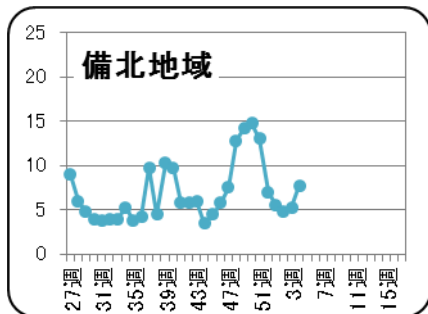
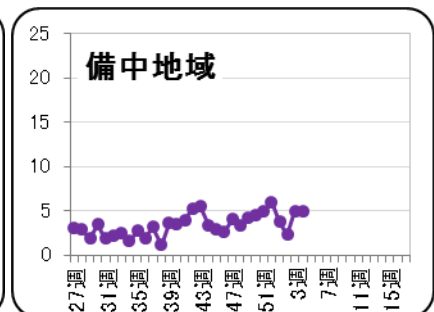
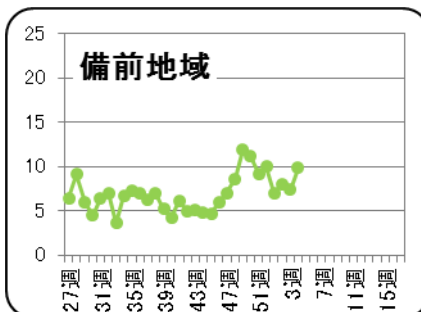
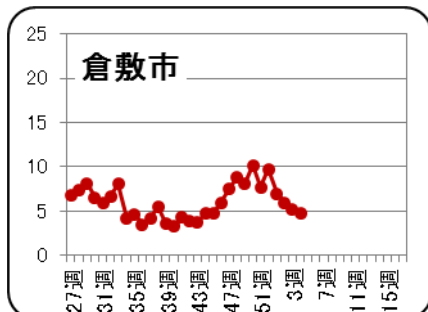
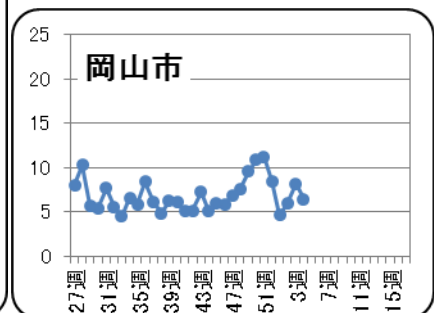
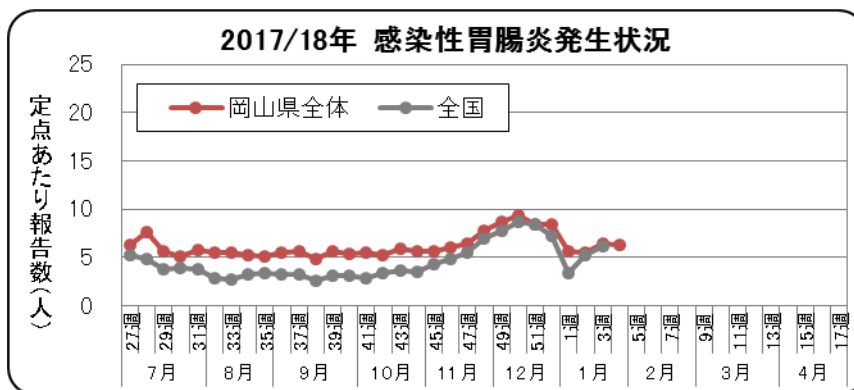


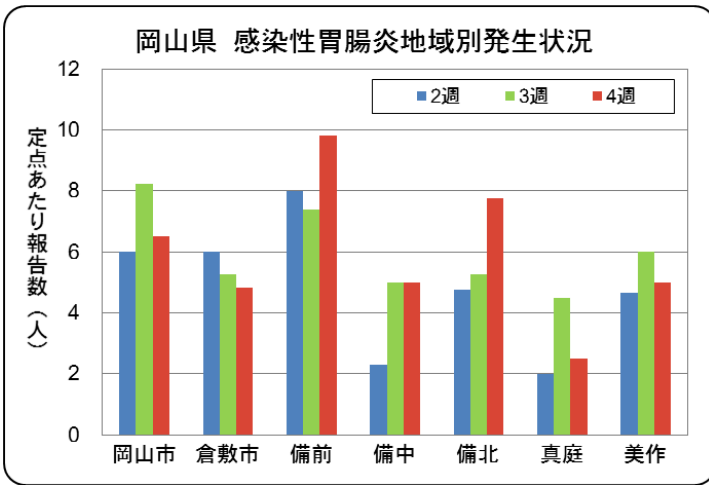
※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週で、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で343名(定点あたり6.44→6.35人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

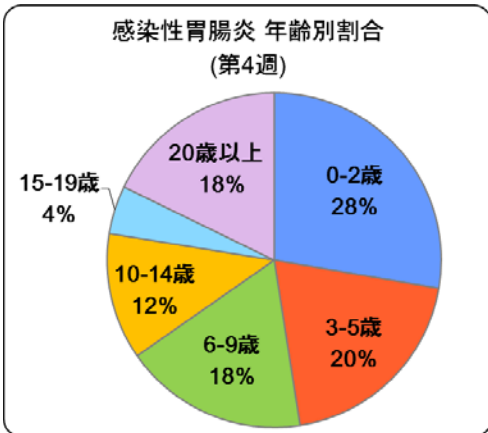
◆地域別・年齢別発生状況





レベル3	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値
20	12	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、備前地域（9.80人）、備北地域（7.75人）、岡山市（6.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で患者の減少がみられましたが、備前地域と備北地域では前週より増加しました。

第4週年齢別割合では、0-2歳 28%、3-5歳 20%、6-9歳・20歳以上 各18%の順で高くなっています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水洗濯か**次亜塩素酸ナトリウム**（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水が利用可能である洗濯機があれば熱水洗濯、または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）](#)

[○ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット（厚生労働省）](#)

[○ノロウイルス食中毒予防のための適切な手洗い（動画）（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2018年 4週(定点把握)

(2018/01/22~2018/01/28)

2018年2月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3433	40.87	983	44.68	859	53.69	520	34.67	472	39.33	192	32.00	88	29.33	319	31.90
RSウイルス感染症	17	0.31	2	0.14	1	0.09	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	10	1.67
咽頭結膜熱	9	0.17	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	105	1.94	43	3.07	39	3.55	11	1.10	5	0.71	3	0.75	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	343	6.35	91	6.50	53	4.82	98	9.80	35	5.00	31	7.75	5	2.50	30	5.00
水痘	5	0.09	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	5	0.09	1	0.07	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	16	0.30	7	0.50	4	0.36	1	0.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	1	0.17
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	-	-	1	1.00	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 4週(発生レベル設定疾患)

(2018/01/22～2018/01/28)

2018年2月1日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3433	40.87	983	44.68	859	53.69	520	34.67	472	39.33	192	32.00	88	29.33	319	31.90
咽頭結膜熱	9	0.17	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	105	1.94	43	3.07	39	3.55	11	1.10	5	0.71	3	0.75	1	0.50	3	0.50
感染性胃腸炎	343	6.35	91	6.50	53	4.82	98	9.80	35	5.00	31	7.75	5	2.50	30	5.00
水痘	5	0.09	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	5	0.09	1	0.07	3	0.27	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	0.25	2	0.40	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第4週 2018/01/22～2018/01/28)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	3433	7	32	92	86	135	182	212	213	238	203	198	670	207	117	198	226	144	128	83	62

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	17	3	3	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	9	-	1	3	-	1	1	1	1	-	-	-	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	105	-	-	1	5	8	15	18	18	7	6	11	11	1	4
感染性胃腸炎	343	8	14	42	31	29	20	19	24	19	5	13	42	16	61
水痘	5	-	1	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病	5	-	1	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	16	1	3	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-

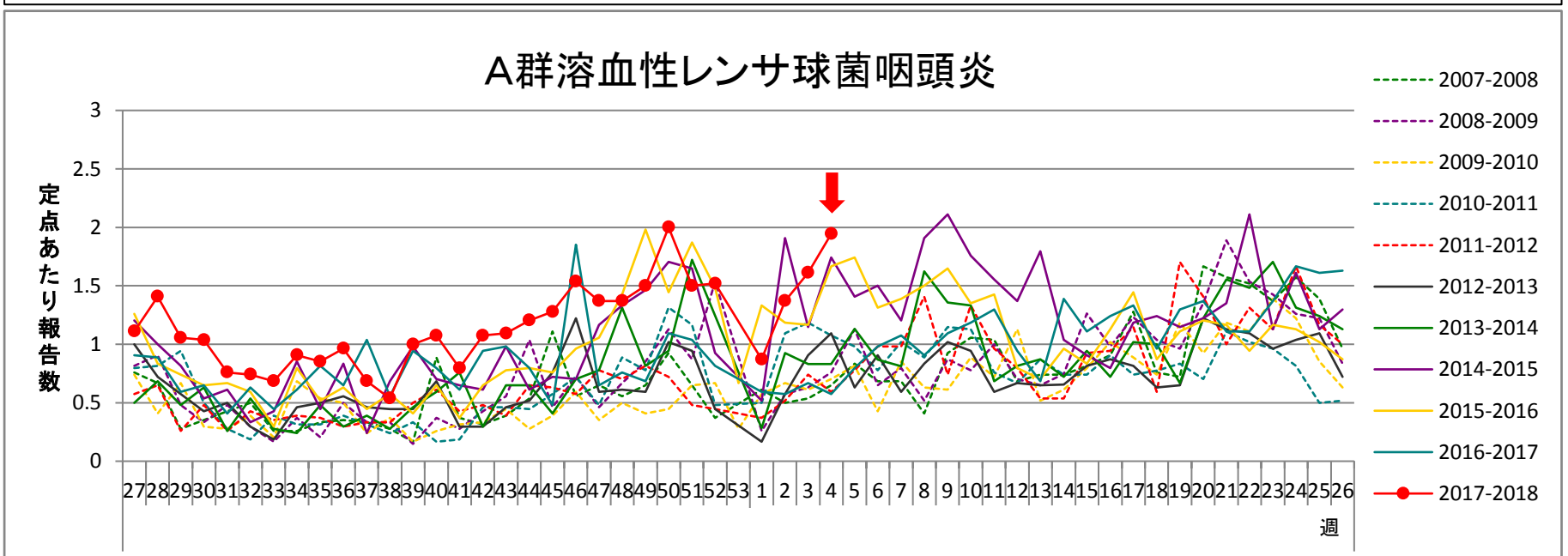
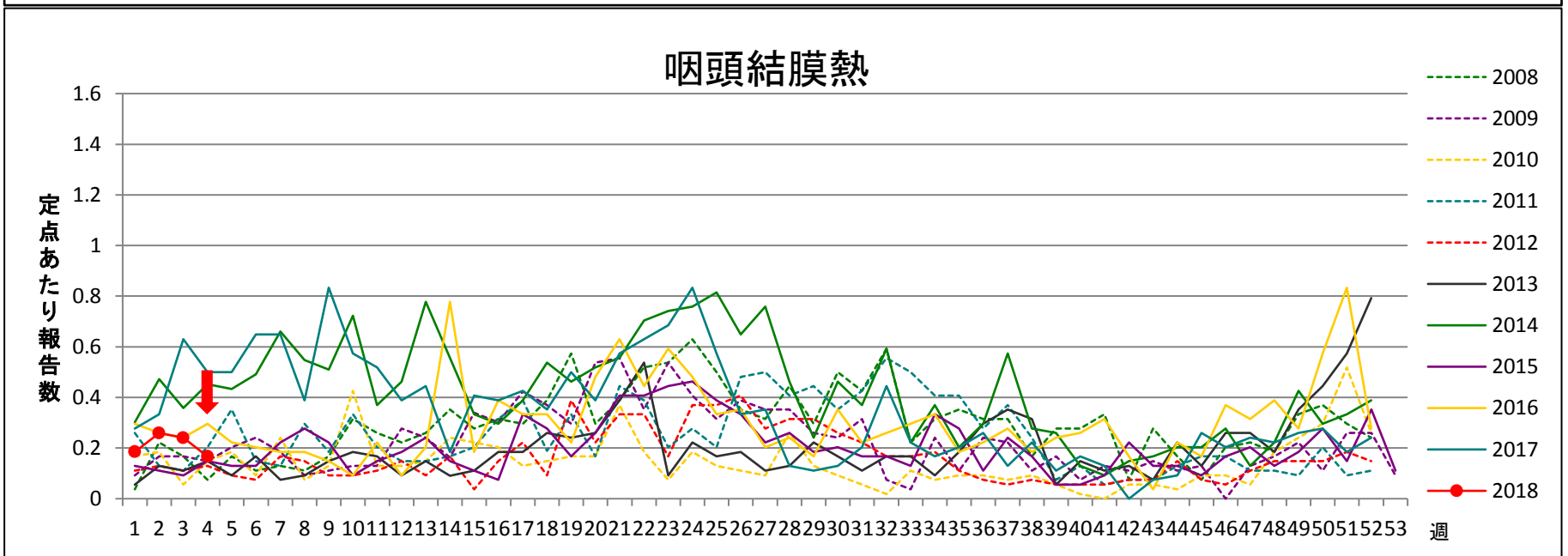
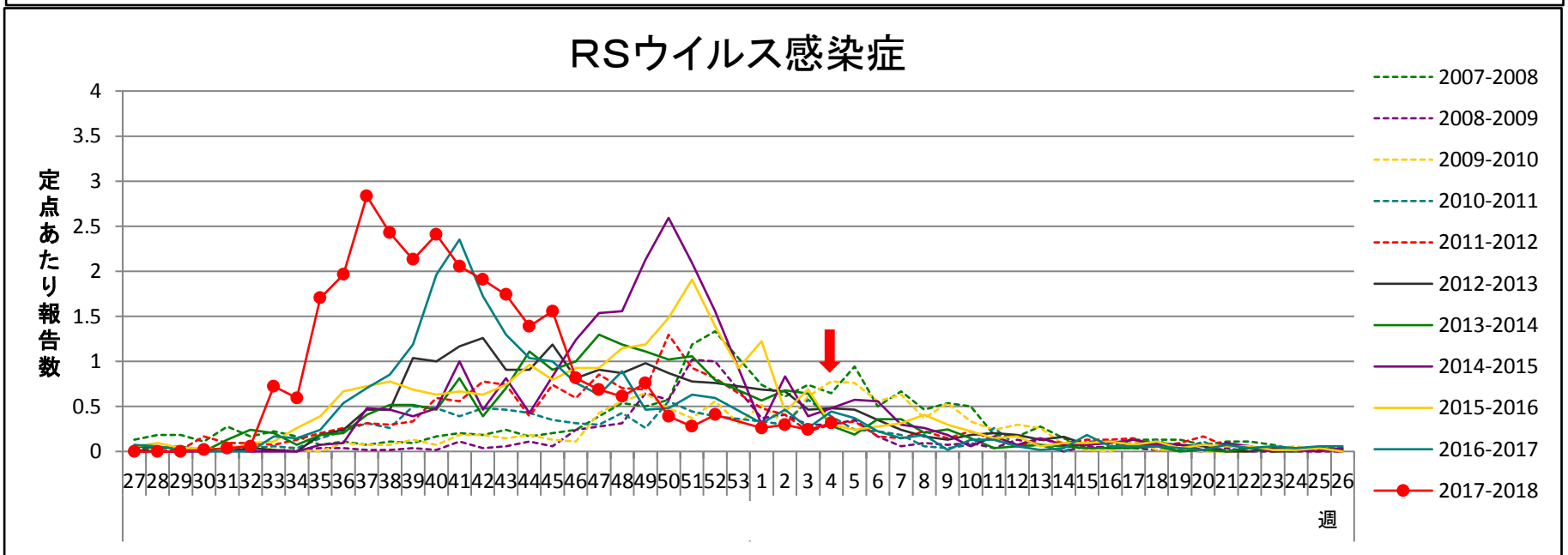
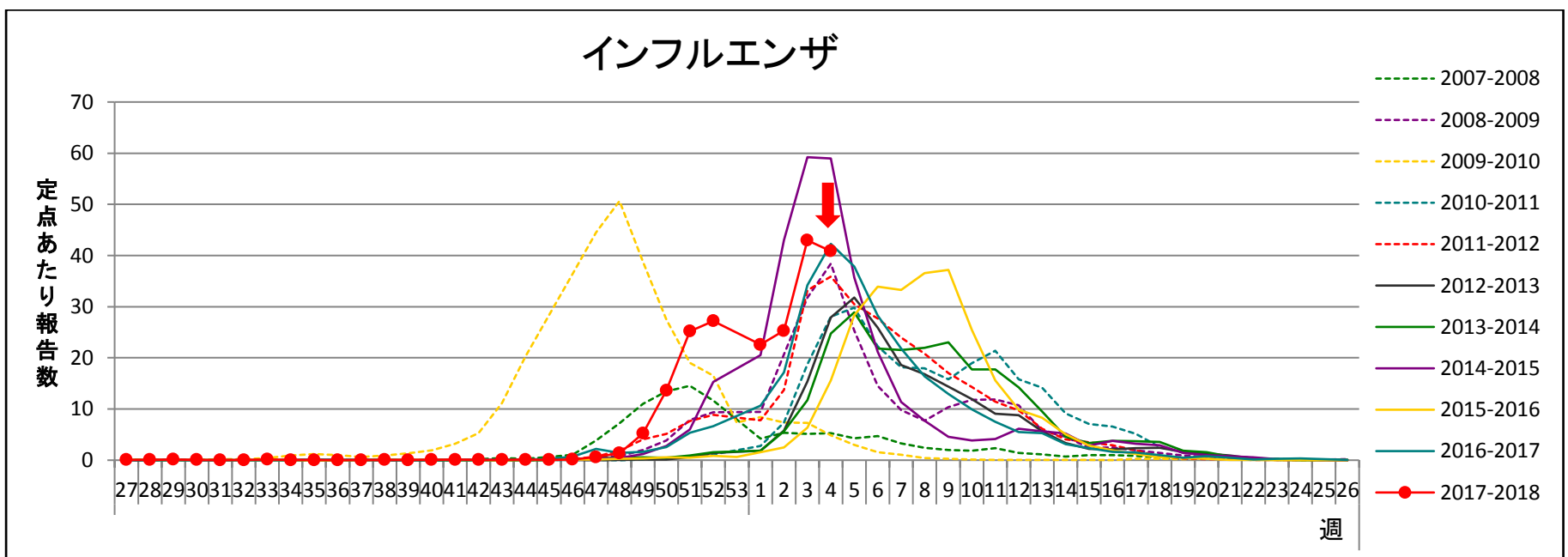
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

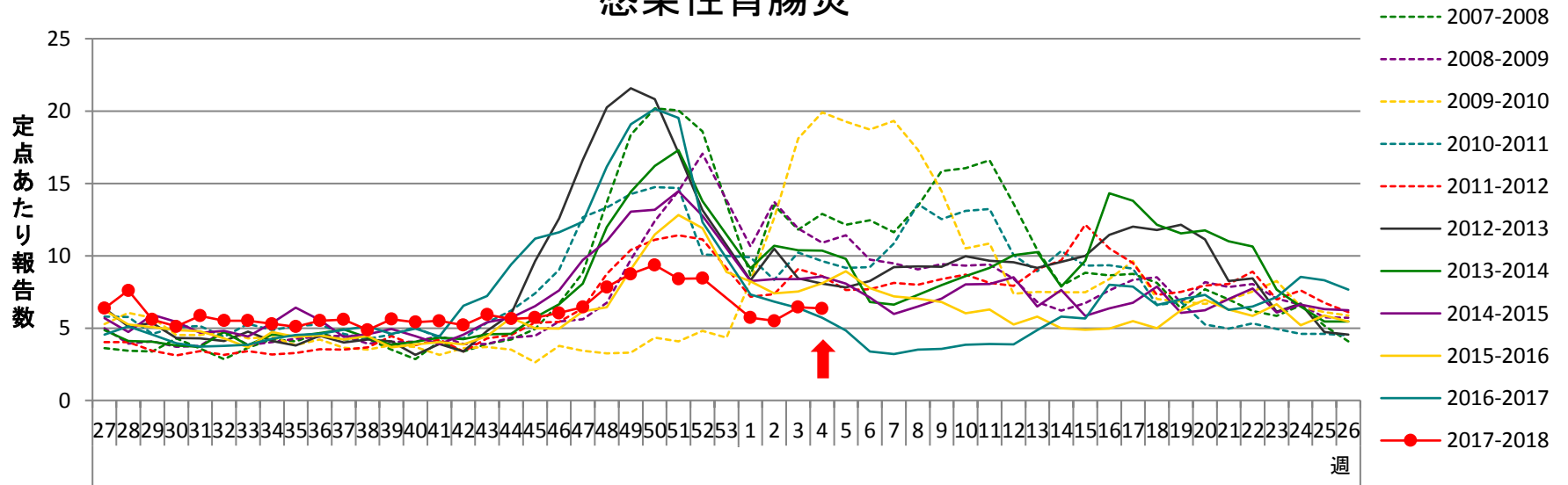
全数把握 感染症患者発生状況

2018年 4週

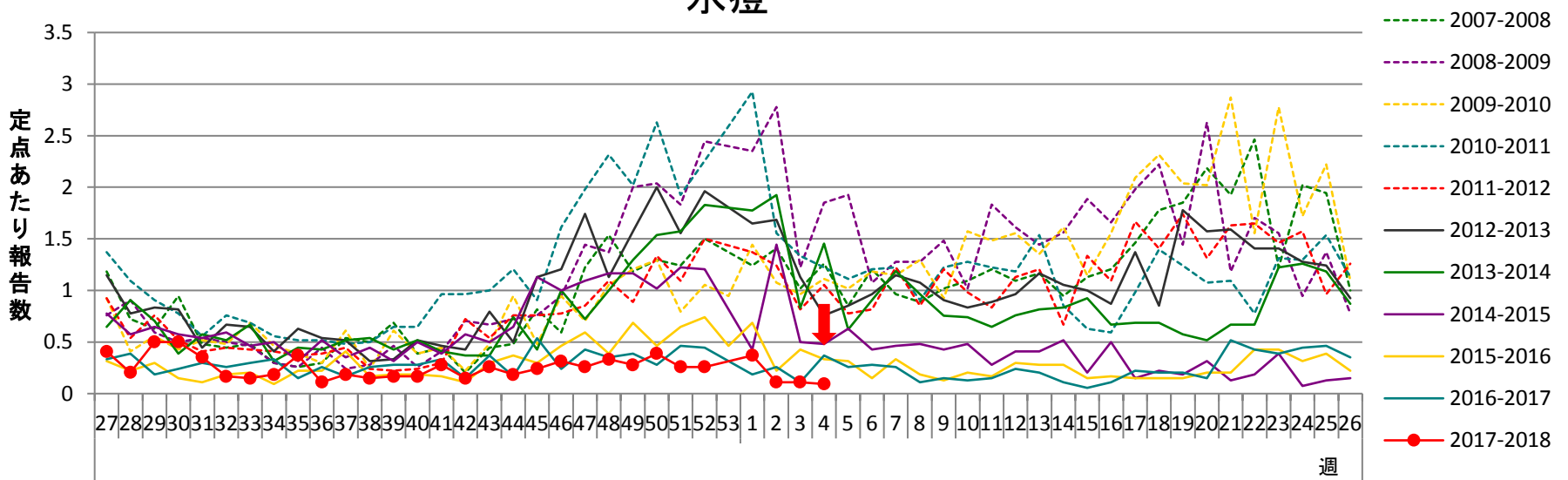
分類	疾病名	2018			疾病名	2018			疾病名	2018		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	16	363	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	-	3	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	5
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	7
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	2	30
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
五類	アメーバ赤痢	-	2	22	ウイルス性肝炎	-	-	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	2	17
	急性脳炎	-	1	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	4	8	後天性免疫不全症候群	1	2	22	ジアルジア症	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	36
	水痘(入院例に限る。)	-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	1	8	169
	播種性クリプトコックス症	-	-	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	5	14	-	風しん	-	-	-
	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-				



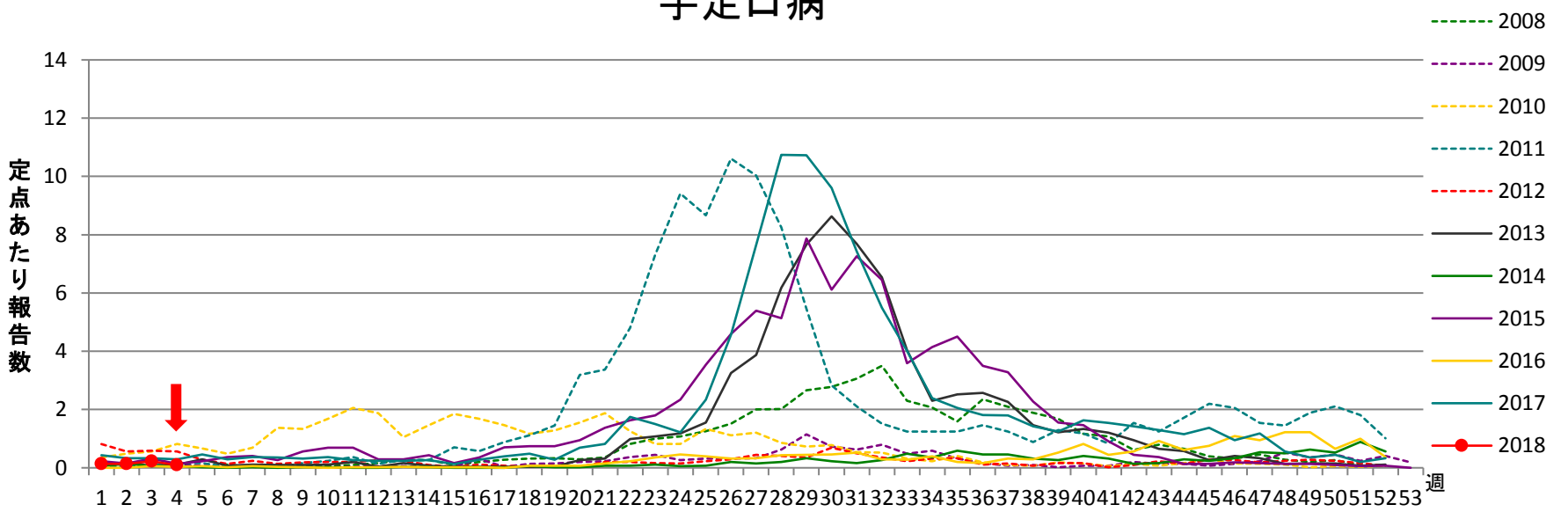
感染性胃腸炎



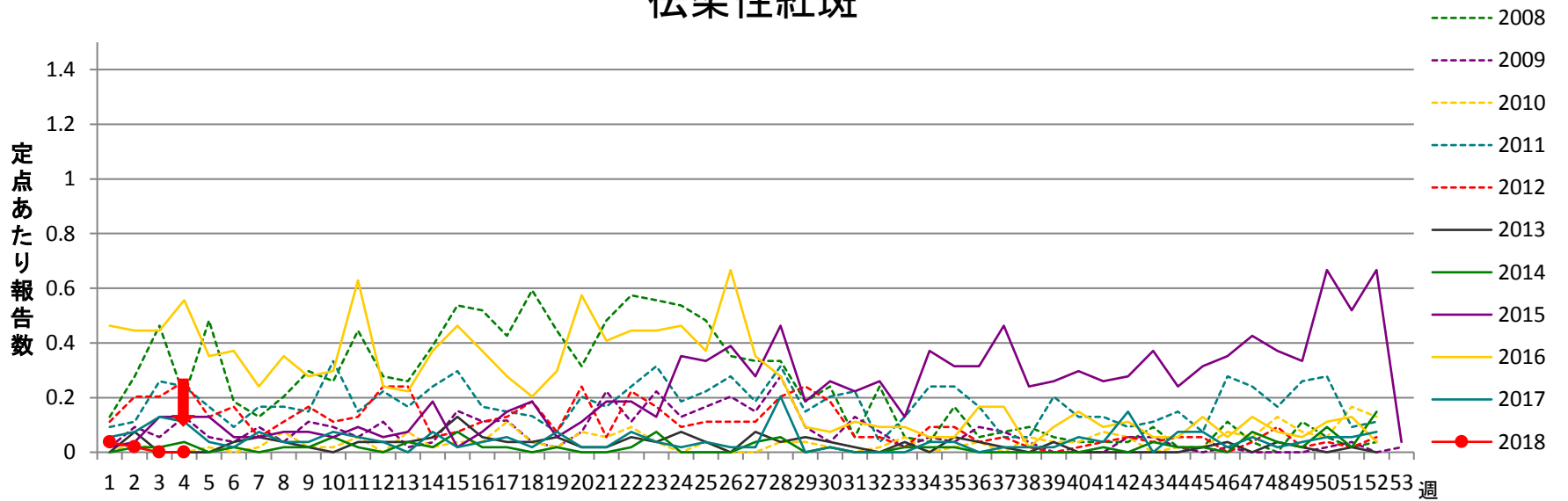
水痘



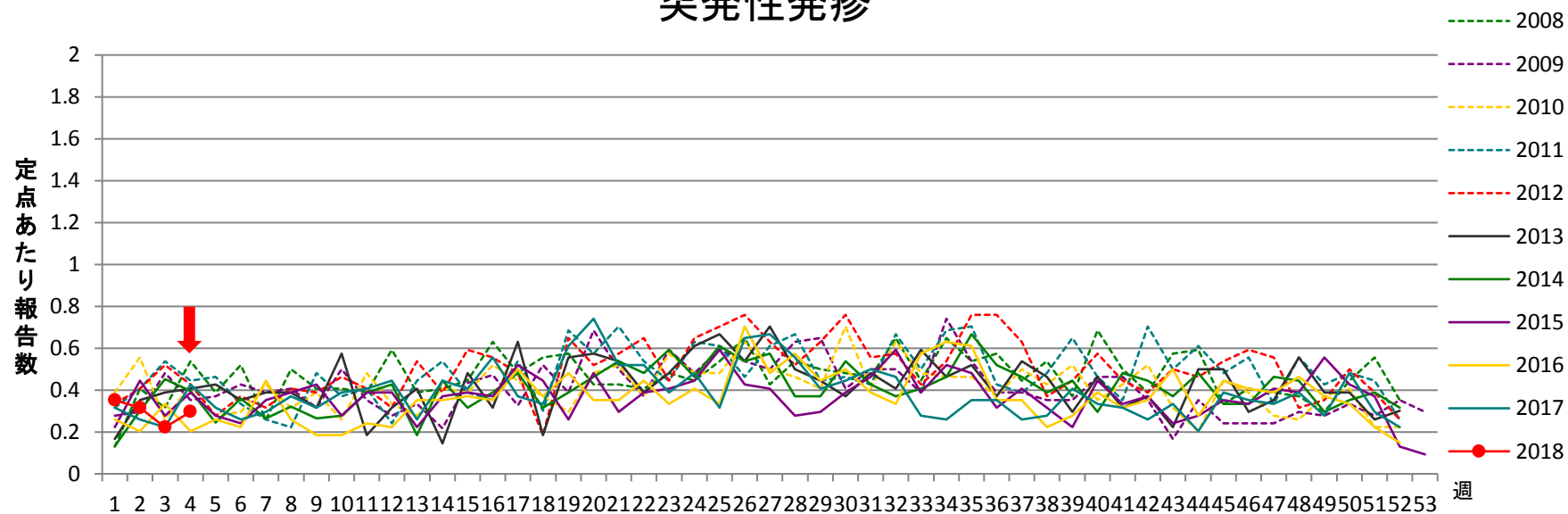
手足口病



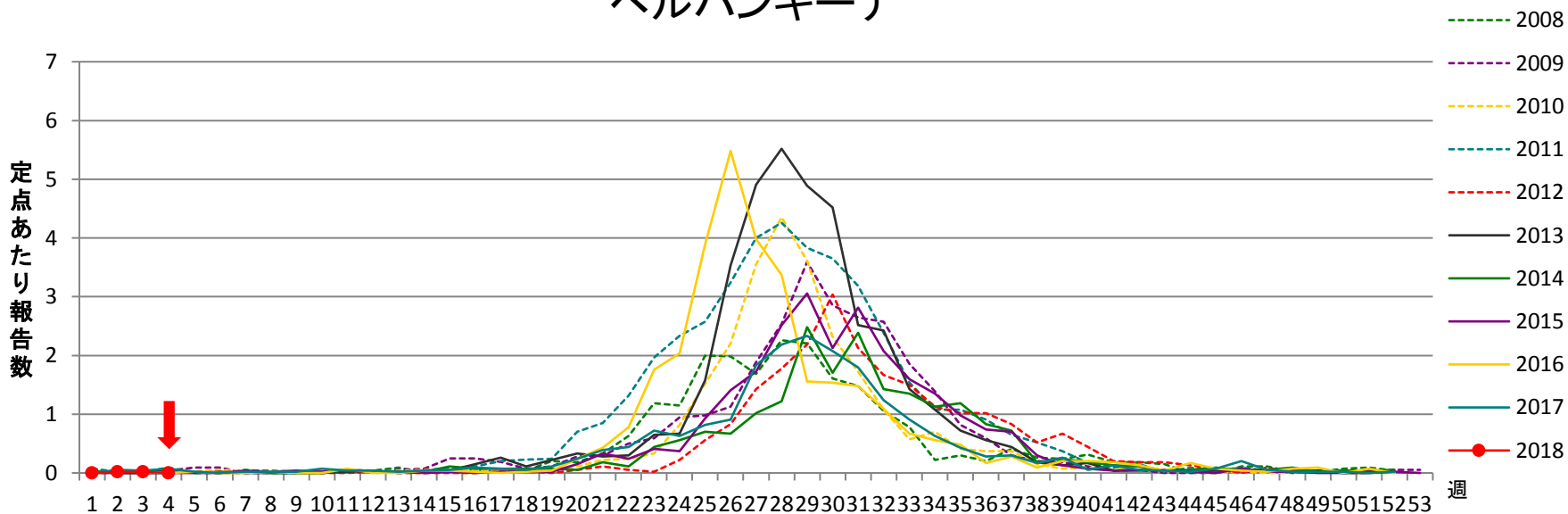
伝染性紅斑



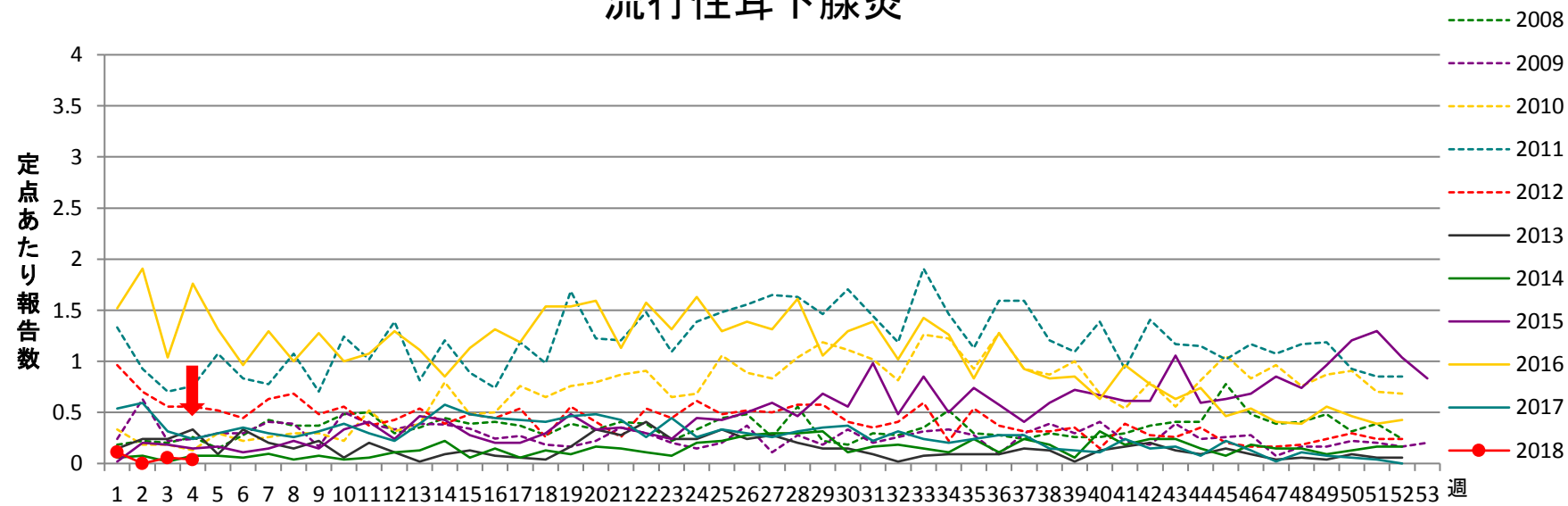
突発性発疹



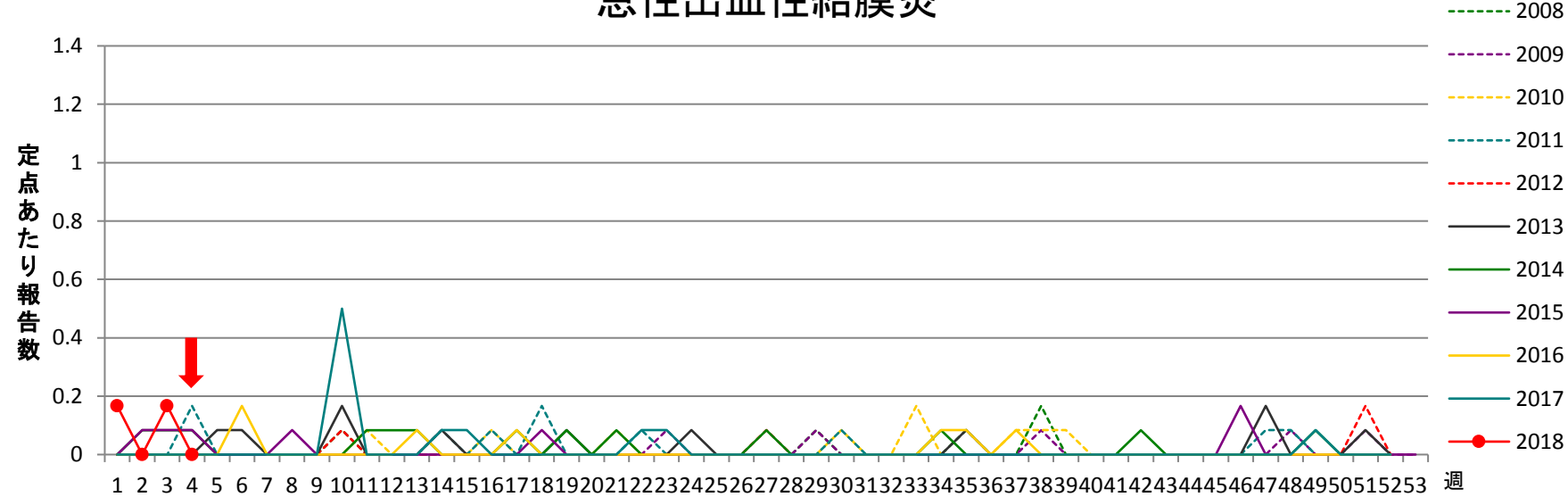
ヘルパンギーナ



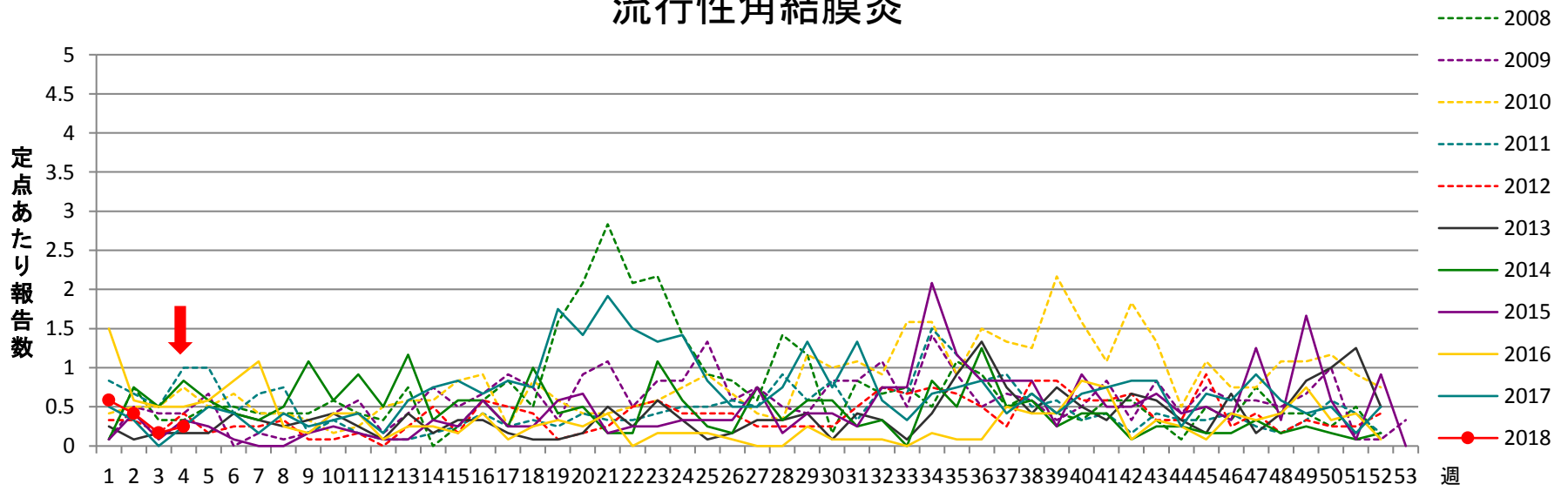
流行性耳下腺炎



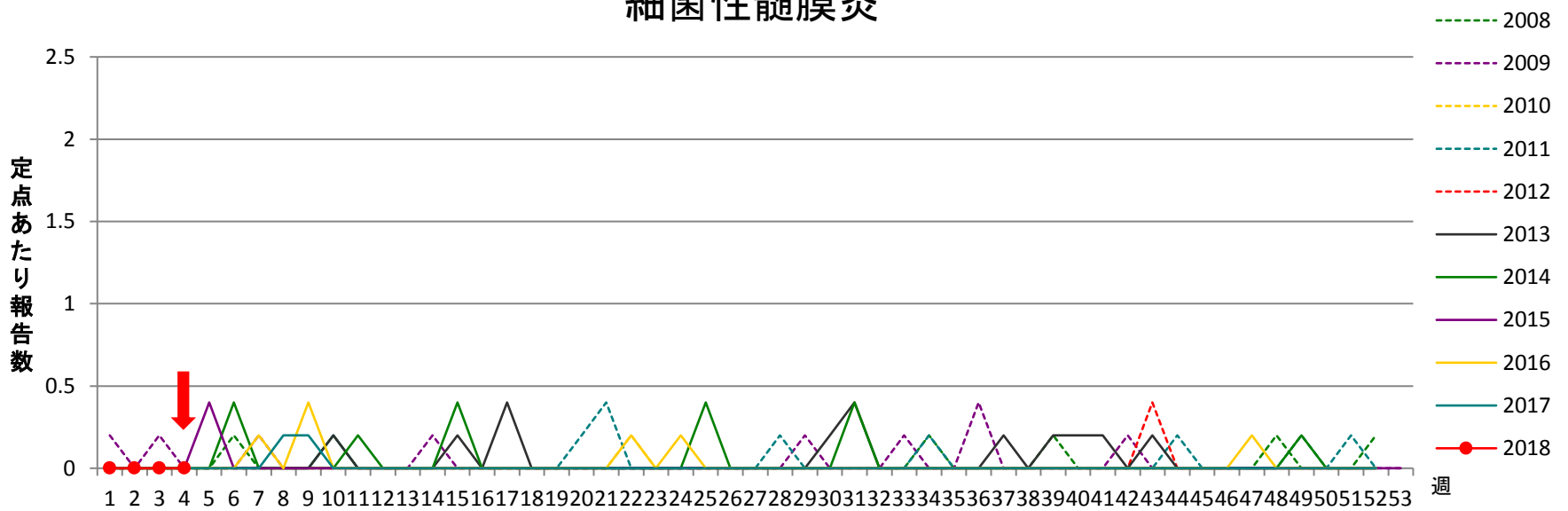
急性出血性結膜炎



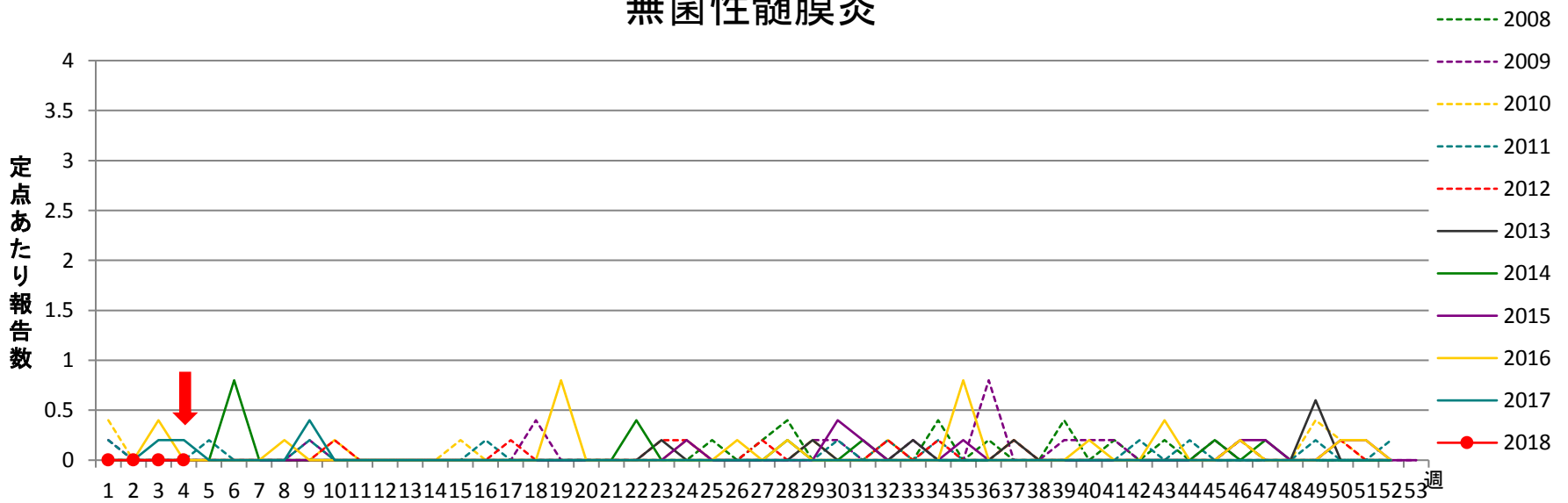
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎

